PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

北海道の印刷

2011 8

第663号（平成23年8月）
発行／平成23年8月10日

北海道印刷工業組合
〒064-0808　札幌市中央区南8条西6丁目
TEL（011）562-6070
FAX（011）562-6072
URL：http：//www.print.or.jp
E-mail：info@print.or.jp

第29回北海道情報・印刷文化典オホーツク大会 ―3
印刷産業ＣＳＲ事業説明会 ―4～8
第17回北海道青年印刷人フォーラム案内 ―9
インキ価格値上げに要請 ――9
2011北海道情報・印刷産業展 ―10
2011北海道情報・印刷産業展公式セミナー ―11
2011北海道情報・印刷産業展会場案内図 ―12～13
2011北海道情報・印刷産業展出展一覧 ―14～16
全印工連2011フォーラム案内 ―17
IGAS2011案内 ――――17
税制改正のお知らせ ――18
「集団扱火災保険」・「集団扱自動車保険」案内 ―19
第25回北海道印刷関連業協議会ゴルフ大会 ―20
業界のうごき ――――20
紙上暑中見舞名刺交歓 ―21～26

美幌峠から見た屈斜路湖

第29回北海道情報・印刷文化典オホーツク大会
「未来」を見つめ、「いま」を刷る～心をつなぐ未来の印刷

コムケ湖をラムサール登録湿地に

第29回北海道情報・印刷文化典オホーツク大会実行委員　新沼　透
株式会社北海民友新聞社代表取締役

３月11日の東日本大震災は日本社会に大きな衝撃を与えました。それまでの日常生活を一瞬にして奪うどころか多くの肉親をも失った。都市壊滅の惨状に地震をもたらした自然を恨むこともできず、そうした現実を前に人間という存在がなんと些細な存在かを感じさせます。自然への畏怖の念を抱かざるをえません。自然は時として人間に牙を剥くものでありますが、一方で自然のなかの一員として生かされているのが人間でもあります。

紋別市街地から南東方向の郊外、海岸線に沿ってコムケ湖という海跡湖があります。面積は、わずか5.8平方キロメートルですが、３つの湖盆が水路でつながり周囲は22.7キロメートルに及びます。ここで観察される野鳥は270種にも及び、アカヒレアシシギ、トウネンなどのシギ、チドリ類やヒドリガモなどのガン、カモ類などが飛び交います。

昨年、環境省はラムサール条約湿地の登録を推進するため、ラムサール条約湿地としての国際基準を満たすと認められる湿地（潜在候補地）を全国から172ヶ所を選定しました。その候補地の１つとしてコムケ湖が選定されました。

今私たちは、2012年５月にルーマニアで開催される生物多様性条約第11回締結国会議（ＣＯＰ11）に向けて登録を目指す活動を展開しています。コムケ湖を我々の貴重な財産として大切にしていこうという思いを未来に引き継いでいきたいと思います。

コムケ湖がラムサール条約湿地に登録されることは、単に自然を守ることに繋がるだけではありません。ラムサール条約湿地登録・コムケ湖の知名度を上げ、さらに所在する地域全体のイメージを挙げて観光や産業振興にも繋げることができるものと考えています。

地方には自然でも文化でもそれぞれお宝があります。それを守り地域が個性豊かにそこにあり続けることが大切だと思います。印刷の仕事も地域文化発信の担い手になっていきたいと思います。

ＣＳＲは経営戦略

印刷産業ＣＳＲ事業説明会開催

印刷産業ＣＳＲ事業説明会が、６月17日午後１時から札幌市中央区のきょうさいサロンで、全国青年印刷人協議会議長の江森克治氏を講師に迎え、「ボランティア？いいえ、経営戦略です。～社会と共に生きる未来型志向の経営戦略『ＣＳＲ』の真実～」をテーマに、50余人が参加して開催された。

説明会の概要を紹介します。　　（文責：編集部）

江森克治氏

ＣＳＲは経営戦略

今日、話をするのはＣＳＲの話である。全青協でＣＳＲの勉強に取り組んでおり、去年１年間掛けて全国の仲間と勉強してきた。我々はその中でＣＳＲは経営戦略であると言ってきた。ＣＳＲは社会貢献イコールではなく、社会貢献の一部である、社会に対して責任を果たしていこうということである。経営戦略を考えてみると、我々の環境は自分１人で自分の利益を決められない。売上げも自分１人で決められない。自分の利害が自分１人の一存で決められない環境を戦略的環境という。戦略的環境の中で如何に自分に有利にことを運ぶかを考えることを戦略的思考という。戦略的思考に基づいていろいろと考えて並べたものを戦略という。経営戦略は経営が自分に有利に働くように考えたものである。自分がより良いようにと考えるのが経営戦略である。ＣＳＲは社会に良いようにと考えるので一見すると正反対のような感じがする。しかし、我々は明確にイコールと考えている。

企業の社会的責任

ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility）は、日本語でいうと企業の社会的責任という意味である。ＣＳＲというとなにか高尚で、砂漠に木を植えたとか、アフリカに井戸を掘ったとか、大層なもののような気がする。そういうことがテレビ等でも宣伝されているし、大手の企業はそういうことをやっているので、そう思っている方が殆どだと思う。日本語に訳して企業の社会的責任は何かと質問をされた時に、アフリカに井戸を掘ると答える人は殆どいない。企業の社会的責任はきちんと仕事をして、お客様に喜んでいただいて、利益を上げて、税金を払い、企業を続けていくことである。我々はこのことを狭い意味でのＣＳＲ（狭義のＣＳＲ）といっている。もともと企業の社会的責任はそういうものである。これが英語になってＣＳＲになると途端に意味が変わって社会貢献のような話になるが、それには理由がある。いくつか理由はあると思うが１つは環境問題がきっかけになっ

ている。企業の社会貢献活動がＣＳＲとイコールといわれるようになった背景には環境問題が間違いなくある。

環境問題

環境問題の取り組みは、やらなければならないと皆さん認識していると思うが、企業にとっては非常に取り組み難い。どうしてかというと企業は自分が儲かるように戦略的に行動しているが、環境問題は例えばCO_2の削減を一生懸命やったとしてもそれが自分のところに直ぐには返ってこない。一生懸命やっても、やっていない隣もきれいになるので効果が分からない。やった分がどうなるか分からないので戦略的に行動できない。したがって企業にとって環境問題は取り組み難い。しかし、やらなければならないことなので、それに取り組んでいると世間から偉いといわれる雰囲気がある。

ＣＳＲの本質

もう１つは経済全体が縮小している。経済が伸びていたときは、我々のような製造業は作業効率を上げて安いものをたくさん作って利益を上げるというビジネスモデルができたが、全体が下がるとそれができなくなる。できなくなるが今までのスタイルをなかなか変えられないのでいろいろなものを犠牲にしていくことになる。それで不祥事が起きる。最近の焼肉屋えびすは典型的な例である。人件費を下げようとしたのか仕入れコスト下げようとしたのか分からないが安全を犠牲にして肉の管理の仕方を変えてしまったため食中毒を起こした。印刷業はあまり生命に関わるようなことはないが同じようなことが多分起こっていると思う。値段を安くするために品質を下げてしまう、サービスの質

を下げてしまうことによってお客様からお叱りをうけることが多分あると思う。今はそういう企業の姿勢に対して世間の目は非常に厳しい。企業からきちんとやれという圧力はどんどん掛かっている。それでＣＳＲは何となく社会貢献というような考え方をされているが、本質的にはＣＳＲはきちんと利益の上がる商売をして、それを社会に還元する。それには社会の問題に敏感になっていこうということである。本業をしっかりやりつつ社会の様々な課題に対して積極的に取り組んでいくことがＣＳＲである。

機能消費

どうしてＣＳＲは経営戦略とイコールと言えるかである。今、社会が重視する課題はどんどん変化している。成長している時はもっと安くて良いものをたくさん欲しいと市場は求めていた。今は、ものは大体あるのでいらない。そうするとより安くて良いものをというニーズが薄れてきている。消費にはいくつかの種類があるといわれている。１つは機能消費である。機能を消費する。最近はシャワートイレが普及しているのでトイレットペーパーは普通に使えれば

良いということでそんなにこだわらない。ということは安い方が良い。男性の下着もそうである。機能消費は昔からあって、今もあり、将来もある。安くて良いものを大量にというニーズは無くなるわけではないが､人も増えないので､ある一定の量まで行ったら飽和状態になる。そこの中で商売ができる人は一定の数に限られてくる。それ以上の人がこの市場に参入することは不可能である。印刷もより安くて気軽で簡単な印刷という市場ニーズは勿論あるが、全体のパイが決まってしまうので一定以上はそこに参入することはできない。今、インターネットで安くやっている方々がいるが、その人たちが全部生き残るか、新規参入があるかどうか分からないが、ある一定の数までいったらそれで終わりである。それ以上の人達が入ることはできない。

記号消費

機能消費に対して記号消費がある。かつて、いつかはクラウンというコマーシャルがあった。サラーリマンが順調に出世して、課長になり、部長になり、郊外に一戸建を買い、クラウンに乗る。それが人生の成功の証である。今の若い人にそんなことを言っても笑いのネタによりならないが、昔は大真面目にそういう人生を求めていた。自分はクラウンのオーナーだという記号が欲しい。こういう消費は今でも一部ある。私は、こういう人ですとアピールするために消費をする。これは機能とは関係がない。機能だけであれば車は走れば良い。今、この記号が無意味になってきている。車もこういう車に乗っているからその人を表すものではなくなってきている。時計もそうである。今の若い人は車は持たない。持ったとしても走れば良い。免

許とＥＴＣカードは持っているが車は持っていない人がたくさんいる。ものを持っていることが自分の何かを表すということがあまりなくなってきている。そういう時代が来ている。

価値合理的商品

自分が良いと思う価値に対して消費をする。記号とは違う。人からどう見られるかでなく、自分が良いと思えるものに消費行動を起こすというように変わってきている。環境問題に関心のある人は環境関係にお金を使う。福祉、教育もそうである。安全、健康も価値合理的商品である。そのように消費者のニーズも変わるし、市場・社会のニーズも変わっている。このたび震災があったが、被災地に何度か行ったが、あの光景を見て全部壊れて時代が戻ったのではなく、私は何年か先に進んだと思った。街が復興し再生して来るに当たって昔のように復興していくとは思えない。被災した印刷会社がまた同じようにＣＴＰを買い、印刷機を買い、製本機を買ってやるかである。やるかもしれないが、あまりそういうパターンで復興していくようには考え難い。どうせやるのであれば全く新しい

印刷会社をのスタイルをやっていくと思う。話に聞くといろいろなことが変わっていて、暮らし方も地震で揺れてすごく怖かったので３世代、４世代の大家族で暮らすことが行われているようなことも聞く。長持ちする良いものを買うことにしているそうである。今回いろいろなものが海水に浸かり駄目になったが、漆塗りのお椀は大丈夫であった。油が付いても拭けばもとのように使えるそうである。桐の箪笥もそうである。水に浸かると桐が膨らんでそれ以上水が入ってこない。桐の箪笥に入っていた着物は大丈夫であった。長持ちするものを選んで使おうというようになってきている。

フロー型社会からストック型社会へ

前から言われていたがフロー型社会からストック型社会へ。フロー型のどんどん作って消費して新しいものに変えていく社会から、ストック（貯める）、１つのものを買ったら長く使う、直して使うという社会に変わっていくだろうといわれている。そうなると多分建設業界も変わる。新築の家を建てるのではなく、１回使った家を直して使うということになる。エネルギーの問題では作り方も使い方も変わってくる。そういうところにでてくるニーズは何か。この震災を契機に時計の針が先に進んで今までと違う形で消費されたり、生み出されてくる。

我々の経営戦略はどうあるべきかというと、その中で如何にビジネスを進めていくかを考える時に、そういったニーズを汲み取らなければならない。時代がどう動いていて何があるのか。札幌の人、仙台の人、横浜の人ではそれぞれニーズが違う。そういう意味で印刷業は地場産業という。それぞれのニーズをきちんと汲み取ってそれを事業化していく。自分がそのニーズに対して何ができるかを一生懸命考える。それは非常に有効な経営戦略である。自分が有利に試合を進めて行くために自分の相手となるお客様、近所に住んでいる人など、我々が関わる様々な人達が今どんなことを考えていて、どんなことで困っていて、どんなことをしてほしいかを考えて手を打っていくことが非常に有効である。社会に対して何かアクションを起こしていったり、ニーズを汲み取っていくＣＳＲの活動、考え方は有効な経営戦略である。具体的にどうやってやるかというと、ステークホルダー（利害関係者）は、企業を取り巻く人達、お客様、仕入先、従業員、近隣の住民、お客様のお客様が、どんなニーズを持っているか。いろいろな場面を考える。本業できること、本業以外でできること。

ＭＵＤは典型的な印刷業がやるべきＣＳＲ

ＭＵＤは典型的な印刷業がやるべきＣＳＲ的な経営戦略である。視覚で不便を感じる人はたくさんいる。ステークホルダーを高齢者とすると小さい字が見えなくて困っている。そうすると字を大きくしたり、見やすいものを作っていく。そういうキャンペーンを張って世の中に告知していくというようないろいろな取り組みがでてくる。社会で困っていると思われることに敏感になることである。

ソリューションプロバイダー

全印工連で、今ソリューションプロバイダーを掲げているが、それはＣＳＲ的な考え方である。お客様、社会の課題を解決する。ソリューションは解決する、プロバイダーは提供する。課題解決を提供する会社ということになる。

社会の課題を本業で自分達ができることは何か

ＮＰＯが活躍している。給料は払うが組織自体は利益を出さない団体である。我々は営利であるので利益を出さなければならないが、営利と非営利の境界線は無くなってくる。営利と非営利をミックスしたり、非営利同士が結びつく。我々が非営利の団体と何かをやる。いままでは仕事を外注していたが、これからはＮＰＯに発注するようなことが増えていくと思う。営利か営利でないかの垣根が無くなっていくと思う。実際そういうことが私の身の回りでもどんどん起きているし、皆さんの身の回りでも起きているのではないかと思う。こういった社会の課題を本業で自分達ができることは何かを考えていくことが大事である。それこそが経営戦略である。

社会のニーズは毎日動いている

今、会社でやっていることが社会のニーズに合っているか。社会のニーズは毎日動いている

ので目に見えない。自分の会社と社会のニーズのズレが生じてくる。それをほうっておくと完全に役立たずになる。ズレを修正しながらニーズに対応するために従来やってきたことを使って何がどうステップアップできるのか。そこがまさにコアコンピタンスである。自分が何を持っていて新しい技術に対してどの技術やどのようなノウハウを使ってお手伝いできるのか、対応することができるのかを考えていくことで、次の時代に対応する経営をすることができる。それをやっているＮＰＯや新しいニーズに対応している人たちの力を借りていくことで思わぬシナジーが生まれてくる。これは事業領域を拡大するチャンスである。今までできなかったものをＮＰＯとコラボレーションすることで何かできるようにする。今は震災関連でＮＰＯがたくさん活動しているので、今は繋がれるチャンスである。今は仕事にならないかもしれないが、そういう目的をもって取り組んでいただくと後から何か繋がるのではないかと思っている。

印刷業版のＣＳＲ認定制度

皆さんの会社でよりＳＣＲに取り組みやすくするために、ＩＳＯの企画要求事項のようなものを作っている。社内で継続的にＣＳＲに取り組めるように、この項目とこの項目はやってくださいというような企画要求事項を作っている。将来はそれで認定制度のようなものを作って認定をしていきたいと思っている。今年のブロック協議会で勉強会を始めるので、青年会のメンバーからその内容を聞いてほしい。今は大企業中心であるが、取引業者に対するＣＳＲ監査が行われるようになってきた。例えば、残業代はきちんと払っているかなどを発注元の会社が発注先に調査を入れることが行われている。ＩＳＯを継続して取らなくなってきているのでＩＳＯの監査の人が仕事がなくなってきているため、その人達の新しい仕事としてＣＳＲ監査が増えている。その流れを組合として上手く捉えるのであれば、これからは大手の企業だけでなく、私は横浜市にそういうプレッシャーを掛けている。入札に誰もが参加して安いところが受注するということはそれはそれで良いが、横浜市として発注している会社がきちんと残業代を払っているか、きちんと法令を遵守してやっているかのチェックをしなくて良いのかを横浜市に対してプレッシャーを掛けている。発注元がそんなことはやっていて当然だといえる時代ではない。大手企業は発注したところがきちんとやっているかどうか見に行っている。そこが問題を起こした時に、親会社が私は関係ありません、知りませんと言えない時代になってきている。印刷業版のＣＳＲ認定制度ができた時には、この制度を取っている印刷会社は安全であるので安心して発注してください、安心して取引してください、というような基準になるようなものができたら良いと思っている。大手の企業で印刷会社と取引するときにはこの制度を持っているところにしなさいといってくれるくらいのものになれば良いと思っている。そうするとつまらない変な競争は無くなっていくのではないか。地域のために役に立とうと志をもって一生懸命頑張っている会社が生き残っていけるような制度を作っていけたら良いと思っているので協力をお願いしたい。

平成23年度全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会
第17回北海道青年印刷人フォーラム

全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会ならびに第17回北海道青年印刷人フォーラムを開催する。

今期、全青協では「経営戦略としてのＣＳＲ」の推進を提唱している。

今年は自社のＣＳＲ活動に積極的に取り組む㈱プリプレス・センター　藤田靖社長を講師に迎え、実践事例の発表を行ってもらう。

また、印刷業として何ができるか？私に何ができるか？を考え、ワークショップを開催する。

記

日　時／平成23年９月３日㈯　13：00～17：00
会　場／アクセスサッポロ
　　２Ｆ　レセプションホール
　　（札幌市白石区流通センター４丁目
　　3−55）

プログラム
⑴挨拶　　全青協議長　江森　克治
⑵ＣＳＲ実践事例発表
　㈱プリプレス・センター
　　代表取締役　藤田　靖 氏
⑶ワークショップ
　「コ・ココ・ココロ・ココロミ」
　”街・社会に一人ひとりの力を活かすために～私からはじめる印刷業のＣＳＲ”
　　ファシリテーター
　　全青協副議長　滝澤　光正
⑷ＣＳＲガイドラインセミナー
　①規格の説明
　　＜システム規格＋有効性評価＞
　　全青協副議長　岸　　昌洋
　②実践報告　　全青協副議長　大和　繁樹
⑸質疑応答

■参加費／2,000円（テキスト代）
　※当日会場で申し受けます
■定　員／80人（申込先着順）

インキ２社に「インキ価格値上げの対応」を要請

全日本印刷工業組合連合会は、このたび、日印産連と連携して、ＤＩＣグラフィック㈱ならびに東洋インキ㈱に対して、「インキ価格値上げへの対応のお願い」の要請を行った。

中小印刷業界においては、長引く景気の悪化に加え、東日本大震災の影響で経営は低迷の一途を辿っており、３月11日の大震災以降、日本の全産業界が一致団結して未曾有の厳しい環境を克服するため血の滲むような経営努力を続けている中で、今回のインキ価格の値上げは、これまで永年築き上げてきた良好な関係を壊すことになりかねないとし、今一度、日本の散々たる状況、そして全産業界挙げての復旧、復興へ向けての真摯な姿勢などを鑑み、インキ業界のリーディングカンパニーとしての社会的責任、同じ印刷産業界の仲間という観点からそれに相応しい対応をお願いした。

さらに、ＤＩＣグラフィックス㈱に対しては、一方的で強硬な態度での値上げは、これまで築き上げてきた良好な関係を壊すばかりでなく将来にわたって禍根を残すことになるとも訴えた。

これに対して同社から「説明不足の点はお詫び申し上げ、今後はお客様との折衝にあたりより一層丁寧な説明と対応をする」旨の回答があった。

2011北海道情報・印刷産業展

9月1日㈭、2日㈮、3日㈯／アクセスサッポロで開催

北海道情報・印刷産業展実行委員会（北海道印刷工業組合、北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合、北海道製本工業組合、北海道フォーム印刷工業会、㈳日本グラフィックサービス工業会北海道支部、北海道紙器段ボール箱工業組合、北海道印刷機材販売業者懇話会）は、2011北海道情報・印刷産業展を開催する。

印刷産業界を取り巻く環境は、デフレ経済の渦中での需要の減退、価格競争の激化による収益の著しい低下の中、デジタル技術の急進展による技術融合・業際化、顧客企業におけるペーパーメディアの生産の活発化など様変わりしてきており、これまで経験したことのない大きな変革への対応が迫られている。

さらに、21世紀のブロードバンド時代の印刷産業は、オープン化された印刷技術の中にあって、制度の高いプロの技術を探求し続け、情報産業と製造業を兼備した「情報価値創造産業」として発展して行かなければならない。

2011北海道情報・印刷産業展は、道内印刷関連業の将来を展望し、企業経営の価値を見出し、デジタル化推進に必要な印刷関連資機材・情報機器等の選択、情報交換、ソリューションビジネスを模索する絶好の機会であり、ＩＴ時代の道内印刷関連業界ならびに企業発展の原動力となる道内では年に一度の総合展示会となっている。

また、９月１日㈭・２日㈮の両日、「望まれる印刷・関連企業になるために（第５弾）」の４つの公式セミナーを開催する。

〔主催〕

北海道情報・印刷産業展実行委員会
- 北海道印刷工業組合
- 北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合
- 北海道製本工業組合
- 北海道フォーム印刷工業会
- ㈳日本グラフィックサービス工業会北海道支部
- 北海道紙器段ボール箱工業組合
- 北海道印刷機材販売業者懇話会

〔後援〕

経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市

〔協賛〕

㈱印刷出版研究所、㈱日本印刷新聞社、ニュープリンティング㈱

〔会期〕

平成23年９月１日㈭、２日㈮、３日㈯
午前９時30分～午後５時（3日は午後4時まで）

〔会場〕

アクセスサッポロ
（札幌市白石区流通センター４丁目３番55号）

〔交通案内〕

会場行無料バスは運行されていません。公共交通機関をご利用の場合は地下鉄東西線「南郷18丁目駅」またはＪＲ函館本線「厚別駅」下車が便利です。自家用車でご来場の方は無料駐車場が利用できます。

〔出展機器〕

印刷機械、プリプレス機器、製本機器、情報機器、その他加工機械等総合印刷機器

〔出展社・小間数〕

47社、146小間

2011北海道情報・印刷産業展公式セミナーのご案内

2011北海道情報・印刷産業展では、「望まれる印刷・関連企業になるために【第５弾】」をスローガンに４つの公式セミナーを開催する。

会場は展示会場であるアクセスサッポロの２Ｆレセプションホール、受講料は無料、定員は80人（事前予約制）となっている。

開催日時、テーマ、講師等は次のとおり。

❶９月１日㈭　13：00～14：15

テーマ　「東京の製版会社が取り組んだフォトブック事業の新規立ち上げ実践のご紹介」

講　師　コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱ＰＰＧ事業推進センター　マーケティング部
岸本　一成氏

東京のある製版会社が取り組んだ、新規フォトブック事業を立ち上げた実践内容をご紹介します。

出版不況の中、仕事が減り続ける状況の中、攻めに転じた製版会社がフォトブック事業に参入しました。その立ち上げの企画から実践までの一部始終をご紹介します。

❷９月１日㈭　15：00～16：15

テーマ　「印刷会社がエリアマーケティングを提案するメリット」

講　師　富士フイルム グラフィックシステムズ㈱
マップマーケティング㈱
福田　康司氏

言葉は聞いたことはあるけれど、よく分からない「エリアマーケティング」。なぜ、印刷会社に必要なのか？印刷物とはどう関係してくるのか？どう提案すれば良いのか？

20代女性、はたまた、ファミリーなど、商品やサービスごとにターゲット層は異なりますが、もしターゲット層が多く居住するエリアを発見できれば、そこを狙って効率的な販促を仕掛けることができますよね！当日は、エリアマーケティングについて、分かりやすく解説します。

❸９月２日㈮　13：00～14：15

テーマ　「ＬＥＤ−ＵＶ印刷システムの導入効果のご紹介」～ＬＥＤ時代を見据えるＵＶ印刷システム～

講　師　リョービ㈱グラフィックシステム本部営業部営業統括課
販売促進営業支援担当主任
橋本　和彦氏

完成後の東京スカイツリーに代表されるように、建物のライトアップや家庭内にもＬＥＤ照明器具が普及し始めるなど、ＬＥＤ時代が到来しています。環境に優しくコスト削減に繋がるリョービのＬＥＤ−ＵＶ印刷システムは、2009年３月に世界で始めて市場に導入されて以来、品質面や実用性での着実な進化に伴い全国で導入が進んでいます。導入企業様よりＬＥＤ−ＵＶ印刷システムの導入効果に高い評価をいただいています。次世代のＵＶ印刷システムとして定評のＬＥＤ−ＵＶ印刷システムを、多様な導入事例を交えて最新動向をご説明します。

❹９月２日㈮　15：00～16：15

テーマ　「アップグレードプランのススメ」～Adobeライセンスとモリサワ新フォント～」

講　師　㈱モリサワ
東京本社ユーザーサポート部
長谷川　昌紀氏

いまやＤＴＰだけではなく電子書籍・Webの制作環境として主流となった、Adobe CS。しかし、今年からリリースサイクルなどが変わり、環境の維持・更新に大きな影響が生じます。今がライセンス管理を見直す絶好の機会、今後の環境に対応できるライセンスの対応方法について解説します。あわせて今秋リリースのMORISAWA PASSPORTの新フォントおよび強化ポイントを解説します。

申込みは、http : //www.print.or.jp/

2011北海道情報・

①	北海道グラフィック コミュニケーションズ工業組合
②	㈱サンクレエ
③	㈱Wing M
④	北海道紙器段ボール箱工業組合

交通案内

会場行無料バスは運行されていません。公共交通機関ご利用の場合は地下鉄東西線「南郷18丁目駅」またはＪＲ函館本線「厚別駅」下車が便利です。自動車でご来場の方は無料駐車場が利用できます。

㈱ミマキエンジニアリング

アコ・ブランズ・ジャパン㈱

石田製本㈱

和幸商事㈱

①

共同印刷機材㈱

㈱きもと

②

リョービイマジクス㈱

ダイヤミック㈱

三菱製紙㈱

㈱ピクトリコ

㈱Ｔｏｏ

リコージャパン㈱

㈱ホクラミミックスコーポレーション

㈱メディアテクノロジージャパン

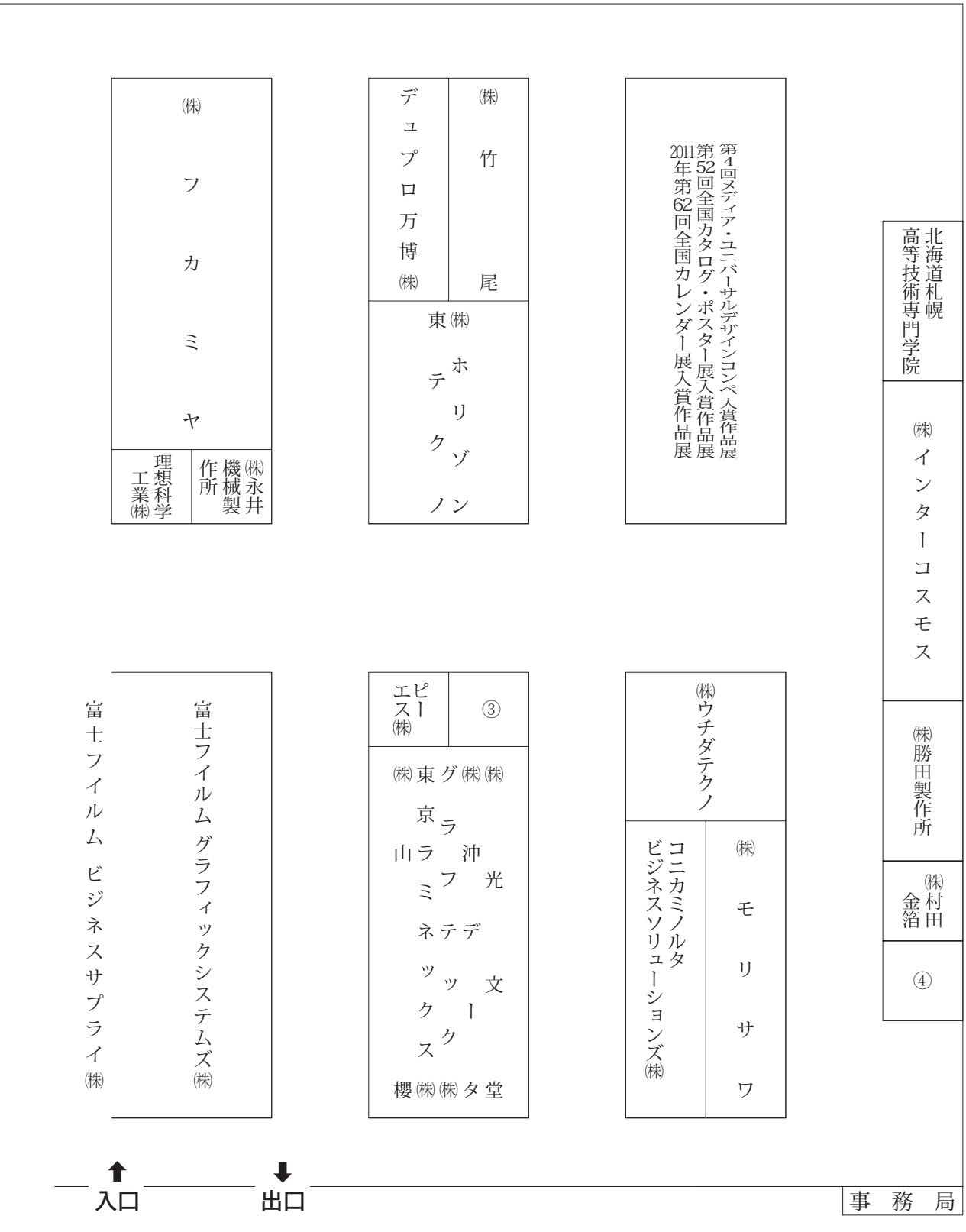
メディアコンフォート㈱

㈱ムサシ

富士ゼロックス北海道㈱

受付・案内

印刷産業展会場案内図


北海道札幌高等技術専門学院
㈱インターコスモス
㈱勝田製作所
㈱村田金箔
④
㈱モリサワ
コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱
㈱ウチダテクノ
第4回メディア・ユニバーサルデザインコンペ入賞作品展
第52回全国カタログ・ポスター展入賞作品展
2011年第62回全国カレンダー展入賞作品展
㈱竹尾
デュプロ万博㈱
㈱ホリゾン東テクノ
㈱フカミヤ
㈱永井機械製作所
理想科学工業㈱
③
㈱光文堂
㈱沖データ
㈱グラフテック
㈱東京ラミネックス
ピーエス㈱
櫻㈱山
富士フイルムグラフィックシステムズ㈱
富士フイルムビジネスサプライ㈱
入口
出口
事務局

2011北海道情報・印刷産業展出展一覧

製版・画像処理関連機材

コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱
bizhub PRESS C7000
フォトブック製本機
Falbard Aqua

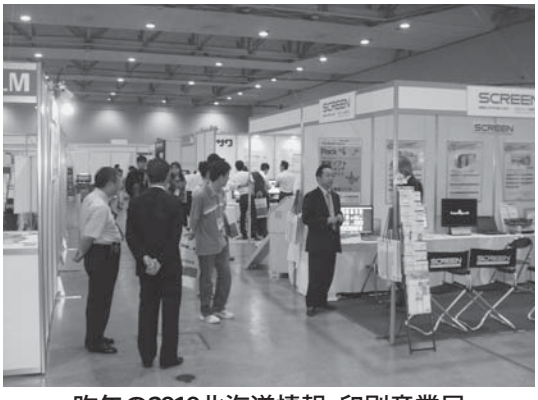
ダイヤミック㈱、三菱製紙㈱、㈱ピクトリコ
デジプレートTDP−4599

㈱Too
EPSON PX−H600
OKIマイクライン930PS−X
プロスカットCM26プラス
プルーフHQ

富士ゼロックス北海道㈱
富士フイルムグラフィックシステムズ㈱
富士フイルムビジネスサプライ㈱
㈱ムサシ
FINEJET PROOFER PRIMOJET
次世代ワークフローXMF
３Dプリントシステム
現像廃液削減装置XR−2000
FUJI XEROX 700Digital Color Press
FUJI XEROX DocuColor1450GA
出力サンプル展示
FUJI XEROX Color1000press
ワイドフォーマットUVインクジェットプレスLuxelJet UV350GTW

㈱メディアテクノロジージャパン
検版装置コレクトアイ
ワークフローリップTrue Flow
オンライン校正イクオスオンライン

㈱モリサワ
自動組版システムMDS−B²
可変印刷ソフトウェアMVP



昨年の2010北海道情報・印刷産業展

年間契約フォントライセンスシステム
MORISAWA PASSPORT

印刷機械

リョービイマジクス㈱
A３縦通し単色印刷機3200CCD
デジプレートTDP−459

製本機械

㈱ウチダテクノ
厚紙用計数機　カウントロンAT
計数機　カウントロン2200
穿孔機　XA−２
帯掛機　TP WⅡ、TP WX

㈱勝田製作所
断裁機KC−66
断裁機SH290HOP JMC−45x

デュプロ万博㈱
インクジェット印刷機DIJ−200
ベルトエアサクションコレーターDSC−10／20＋STACKER
カッタークリーサーDC−645
ライングルーシーラーLG−350

㈱永井機械製作所
断裁機NC−80HHDT

㈱ホリゾン東テクノ
中綴システムSL−5500
紙折機PF−40L

周辺機器・材料

アコ・ブランズ・ジャパン㈱
ラミネーター機6200S
UVコーター13R−POP
製本機E−KARO、マグナパンチ

石田製本㈱
製品・サービス紹介

㈱インターコスモス
ロール式ラミネートマシン ラミガード
IC−640R
パック式ラミネーター ラミガード
IC−340SUPER、IC−320PROⅡ
カッター エレクトロトリム100
製本機 ファーストバック15XS
Canon iPF8000S

㈱Wing M
商品展示

㈱沖データ
MICROLINE ML910PS、B840dn、C530dn

㈱きもと
Clever Press C6000

グラフテック㈱
FC2250−60VC

㈱光文堂
デジタルホットスタンププリンター
KBD「デジハク」
フレキソ・レタープレス用版貼機
KBD「版ピタⅡ」
RGB発光インキによる印刷 KBD「Trick Print」

昨年の2010北海道情報・印刷産業展

㈱サンクレエ
印刷業向け社内原価振替システム
ひぐま６plus

㈱竹尾
商品紹介

東京ラミネックス㈱
TAFシステムラミネーター
RSL−3825
RSL−3812

ピーエス㈱
遠心式加湿器ABS３
電熱式蒸気加湿器SU−257
産業用除湿機DH−PO８RA

㈱ホクラミ、㈱ミクスコーポレーション
多目的インク登載ラージフォーマット
インクジェットプリンタVJ−1608HSJ
冷凍式エアドライヤーIDF３E
UVインク登載フラットベット
インクジェットプリンタLEF−12
スモールフォーマットシルバーインク登載
インクジェットBN−20
広告スクローラー
DYNA−Vision A１

北海道紙器段ボール箱工業組合
製品展示

㈱ミマキエンジニアリング
LED方式UV硬化フラットベッド
インクジェットプリンタUJF−3042
インクジェットプリンタJV−33−130
フラットベッドカッティングプロッタ
CF２−0907

㈱村田金箔
転写型プリンタ 箔色人
A４自動給紙タイプオンデマンド箔プリンタ
DFP300AF
厚物対応万能タイプオンデマンド箔プリンタ
DFP600HG

㈱山櫻
YJ−G650

メディアコンフォート㈱
岩通CTP LP−620Xe
きりっ子MC−01
Address Right DA70S
沖データMicroline930PS−X
長野日本無線Nameliner880pro

リコージャパン㈱
RICOH Pro951EX（オプション付）

昨年の2010北海道情報・印刷産業展

理想科学工業㈱
デジタルスクリーン ゴッコプロ100
リソグラフMD6650W

和幸商事㈱
製品紹介

その他

共同印刷機材㈱
印刷・情報機器相談コーナー

㈱フカミヤ
印刷・情報機器相談コーナー

北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合
カタログ展示

北海道紙器段ボール箱工業組合
製品展示

北海道立札幌高等技術専門学院
電子印刷科紹介コーナー

北海道印刷工業組合
第４回メディア・ユニバーサルデザインコンペ入賞作品展
第52回全国カタログ・ポスター展入賞作品展
2011年第62回全国カレンダー展入賞作品展

全印工連フォーラム2011のご案内

全日本印刷工業組合連合会は、「全印工連フォーラム2011」を開催する。

長期化する不況から抜け出せないままの日本経済、それに加えて東日本大震災の影響と、今や全産業界が停滞に包まれる中、印刷業界も例外ではない。このような状況の中で良質で有益な情報を提供するために開催する。

第１部は、全印工連メッセージとして業態変革推進企画室から７年目を迎えた業態変革の集大成としての「業態変革実践プラン総集編・全印工連2012計画」を発表する。業界を取り囲む環境はますます大きく変化している。このようなときこそ企業が時代の変化に適応するための業態変革の重要性はより高まっている。

また、印刷産業ビジョン研究会からは、印刷業界と密接な関係にある関連業界と連携して、今後の対応について、印刷関連業全体の大きな視点から、「印刷物の減少を抑える対応」、「印刷物を伸ばす対応」、「ソリューション展開への対応」の３テーマにフォーカスした考察を行う。

第２部は、「海外企業研究セミナー」として、米国印刷会社WILEN社、社長Mr.Darrin氏を迎え、アメリカ印刷産業界の現状からWILEN社の取り組みとその戦略まで、示唆に富んだ話を披露してもらう。マーケティング・サービスプロバイダーとして大きく成功、躍進する米国印刷会社の実態を学ぶ。

記

日　時　平成23年９月16日㈮14：00～17：00
会　場　東京ビックサイト会議棟６階会議室
（東京都江東区有明３－11－１）
参加料　１名　3,000円
内　容　第１部　全印工連メッセージ
①「業態変革実践プラン総集編・全印工連2012計画」
②「印刷関連業界と考えるこれからの印刷産業」
第２部　海外企業研究セミナー
「米国WILEN社の成長戦略とその実態」
講師　米国WILEN社
社長Mr.Darrin氏
申込先　全印工連ホームページから申込む
（http : //www.aj-pia.or.jp）

IGAS2011のご案内

印刷産業の最新技術とソリューションを一堂に集める「IGAS2011」が９月16日㈮から21日㈬までの６日間、東京都江東区有明の東京ビックサイトで「Print your Future～印刷は環境とともに進化する～」をテーマに350社、2,658小間の出展で開催される。

IGASは、４年に一度開催される国際総合印刷機材展で、世界の最新技術を駆使した機材とサービスが一堂に展示・実演される。

入場システムは、ゲートにタッチするだけで入場できるＩＣカードを利用した新システムを導入。入乗者は鉄道やバスに利用されている１Ｃ乗車券、ＩＣカード機能付携帯電話を入場ゲートにかざすだけで入場できる。

記

会　期　平成23年９月16日㈮～22日㈭
午前10時～午後５時
（最終日は午後４時まで）

会　場　東京ビックサイト　東館全ホール
（東京都江東区有明３-11）
入場料　事前登録　1,000円
当日　　2,000円

租特透明化法の制定に伴い 平成23年４月１日以後に終了する事業年度から、法人税関係特別措置を適用する場合には、法人税申告書への「適用額明細書」の添付が必要となります。

平成22年度税制改正において、租税特別措置に関し、適用の実態を把握するための調査及びその結果の国会への報告等の措置を定めることにより、適用の状況の透明化を図るとともに、適宜、適切な見直しを推進し、もって国民が納得できる公平で透明性の高い税制の確立に寄与することを目的として「租税特別措置の適用状況の透明化等に関する法律」（平成22年法律第８号）（以下「租特透明化法」といいます）が制定されました。

これに伴い、**平成23年４月１日以後に終了する事業年度又は連結事業年度から、法人税関係特別措置を適用する場合には、その法人が提出する法人税申告書に「適用額明細書」を添付することが必要となります。**

「適用額明細書」の取扱いの概要については、下記以降のＱ＆Ａ形式による説明を参考にしてください。

また、「適用額明細書」の記載方法につきましては、国税庁のホームページに「適用額明細書記載の手引」を掲載しておりますのでご確認ください。

Ｑ１「適用額明細書」とは何ですか？

Ａ１「適用額明細書」とは、法人が法人税関係特別措置（Ｑ２参照）の適用を受ける場合に、その租税特別措置法の条項、適用額その他の事項を記載し、法人税申告書（法人税の確定申告書及び連結確定申告書などをいいます。以下同じです。）に添付して提出する書類をいい、一覧表形式の様式となっています。

Ｑ２「法人税関係特別措置」とは何ですか？

Ａ２「法人税関係特別措置」とは、例えば、中小企業者の法人税率の特例、試験研究を行った場合の法人税額の特別控除、中小企業者等が機械等を取得した場合の特別償却といった法人税に関する租税特別措置のうち、税額又は所得の金額を減少させるもの（具体的には、租特透明化法施行令第２条に掲げる各租税特別措置）をいいます。

Ｑ３なぜ、「適用額明細書」を添付する必要があるのですか？

Ａ３「租特透明化法」は、租税特別措置に関し、その適用の状況の透明化を図るとともに、適宜、適切な見直しを推進し、もって国民が納得できる公平で透明性の高い税制の確立に寄与することを目的としています。

このため、租税特別措置の適用実態を明らかにし、その効果を検証できる仕組みとして、法人税関係特別措置の適用を受ける場合には、その適用状況を記載した「適用額明細書」を法人税申告書に添付することとされています。

Ｑ４「適用額明細書」は、いつから添付する必要がありますか？

Ａ４平成23年４月１日以後に終了する事業年度又は連結事業年度から添付する必要があります。

Ｑ５「適用額明細書」を添付しなかった場合は、どうなりますか？

Ａ５「適用額明細書」の添付がなかった場合又は添付があっても虚偽の記載があった場合には、法人税関係特別措置の適用が受けられないこととされています。

そのため、「適用額明細書」の添付洩れ又は適用額の記載誤り等があった場合には、できるだけ速やかに、「適用額明細書」の提出又は誤りのない「適用額明細書」の再提出をお願いします。

Ｑ６「適用額明細書」は、国税電子申告・納税システム(e-Tax)による送信ができますか？

Ａ６「適用額明細書」については、平成23年６月上旬以降、国税電子申告・納税システム(e-Tax)による送信が可能となる予定です。

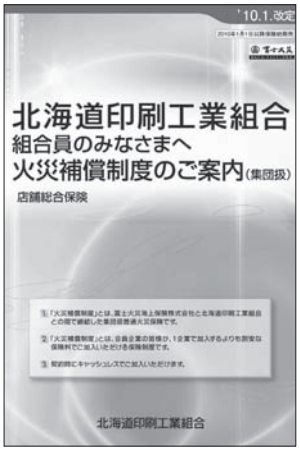
Ｑ７法人税関係特別措置の適用額が変更となる修正申告書を提出する場合、変更後の「適用額明細書」の添付は必要でしょうか？

Ａ７法人税関係特別措置の適用額が変更となる修正申告書を提出する場合には、変更後の「適用額明細書」の添付が必要となります。

北海道印刷工業組合「集団扱火災保険」・「集団扱自動車保険」のご案内

北海道印刷工業組合は、組合員企業の経費節減の一助とするべく北印工組独自の共済として「集団扱火災保険」と「集団扱自動車保険」の２つの共済を実施しています。

集団扱火災保険



「北海道印刷工業組合集団扱火災保険」は、火災保険を集団扱として取り扱うことにより、組合員の皆さんが現在加入している火災保険を、補償内容をこれまでと同じくして保険料を最大で約25.8％割引適用でき、組合員のみが利用できる制度である。

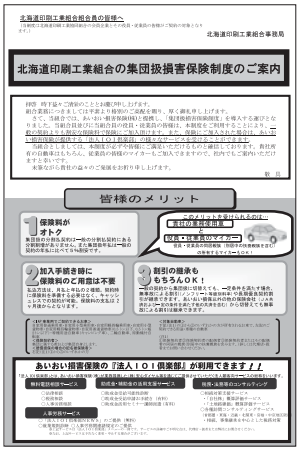
加入時期は、組合員各位の次回の火災保険更新時からとなる。

なお、当組合では、この制度の推進に向けて、取扱代理店として株式会社カキプロ（柿沼修社長）に協力をお願いしている。

現在加入している火災保険証書のコピーを下記の（株）カキプロへＦＡＸして、見積りをお取り寄せいただき、その上で詳細についてお問い合わせのうえ、加入についてご検討ください。

〈取扱代理店〉
株式会社カキプロ
〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4番地
大通藤井ビル２Ｆ
電　話 0120-156-580　ＦＡＸ 011-280-6588

集団扱自動車保険



「北海道印刷工業組合集団扱自動車保険」は、自動車保険を集団扱として取り扱うことにより、組合員の皆さんが現在加入している自動車保険を、補償内容をこれまでと同じくして保険料を５％割引適用でき、組合員のみが利用できる制度である。

また、社用車のみならず社員の方々の車も加入できるので、社員の福利厚生制度の一つとして利用することも可能である。

この集団扱自動車保険の引受保険会社は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社で、組合員への制度の説明・募集は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社指定の代理店が行う（各支部の担当代理店が決まっています）。

〈取扱代理店（総括）〉
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
札幌支店営業第二課
〒060-8553 札幌市北区北７条西５丁目５-３
電　話 011-728-1316　ＦＡＸ 011-728-1354
※各支部担当代理店を案内します。

第25回北海道印刷関連業協議会ゴルフ大会

川口理一郎氏（三条印刷）が優勝

第25回北海道印刷関連業協議会ゴルフ大会が、７月５日正午から札幌市南区の滝のカントリークラブで20人が参加して開催された。

競技は、岡部大会長の始球式でスタートし、日頃から鍛えている腕と技を競い合い、白熱したなかにもなごやかな親睦の輪を広げた。

競技終了後、午後５時からダブルペリアによる成績発表、表彰式が行われ、優勝の川口理一郎氏（三条印刷）に北海道知事杯、準優勝の岡部康彦氏（北陽ビジネスフォーム）に札幌市長杯、１位の黒済敏秀氏（日栄舎）の北海道印刷関連業協議会会長杯が贈られた。

		G	HC	N
優　勝	川口理一郎（三条印刷㈱）	79	4.8	74.2
準優勝	岡部　康彦（北陽ビジネスフォーム㈱）	87	12.0	75.0
1　位	黒済　敏秀（㈱日栄舎）	93	18.0	75.0
2　位	岳　　隆久（㈲岳総合製本所）	86	10.8	75.2
3　位	佐久間英一（㈱サクマ）	89	13.2	75.8
ベスト グロス賞	川口理一郎（三条印刷㈱）	79		

優勝の北海道知事杯を受ける川口理一郎氏（左）

準優勝の札幌市長杯を受ける岡部康彦氏（左）

１位の北印関連協会長杯を受ける黒済敏秀氏（右）

業界のうごき

▶㈲東洋印刷が移転し、社長に中嶋稔氏

有限会社東洋印刷（旭川支部）は、このたび、岡崎秀子社長が退任し、新しく代表取締役社長に中嶋稔氏が就任し、移転した。

〔新住所〕
〒078-8218　旭川市８条通22丁目右10号
TEL 0166-38-8100　FAX 0166-38-8121

■おくやみ■

須田養太郎氏（大輝印刷株式会社取締役会長・札幌支部）は、かねてより入院加療中のところ、３月13日ご逝去されました。93歳。

葬儀は近親者のみで執り行い、偲ぶ会が６月25日午前11時30分から札幌市中央区のホテルポールスター札幌で親族、社員、業界関係者等多数の方々が参列して行われた。